

水稲「とちぎの星」の収穫適期幅の拡大

「とちぎの星」の収穫適期幅は、出穂後 45～53 日と従来の目安である出穂後 40～46 日より長く、収穫作業期間を拡大できます。

【背景】

「とちぎの星」は、収穫適期の目安である出穂後 40～46 日を過ぎて収穫した場合でも、玄米品質が大きく低下しない事例が現場で見られます。収穫期間をより長く確保できれば、作期分散が可能になると考えられます。

そこで、収穫適期幅の拡大可能性を明らかにするため試験を行いました。

【結果】

収穫時期の目安日(出穂後積算気温 1,000℃到達予測日)から定期的に調査したところ、コンバイン収穫時の適正籾水分が 25%以下となる時期は出穂後 45 日以降でした(図 1)。

1 等米の整粒歩合の最低限度 70%以下※となる時期は、機器分析では出穂後日数と整粒歩合の回帰式から出穂後 53 日でした(図 2)。一方、農産物検査では 1 等となる出穂後日数は出穂後 53 日(2025 年)～67 日(2024 年)でした(図 3)。

以上より、とちぎの星の収穫適期は出穂後経過日数 45～53 の間であると明らかになりました。これは今までの収穫適期幅 40～46 日より長く、収穫作業期間を拡大できると考えられました。

※農林水産省の水稲うるち玄米の品位等級検査規格

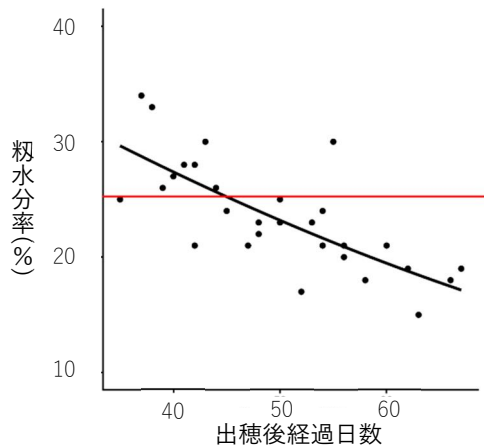


図 1 籾水分率と出穂後経過日数

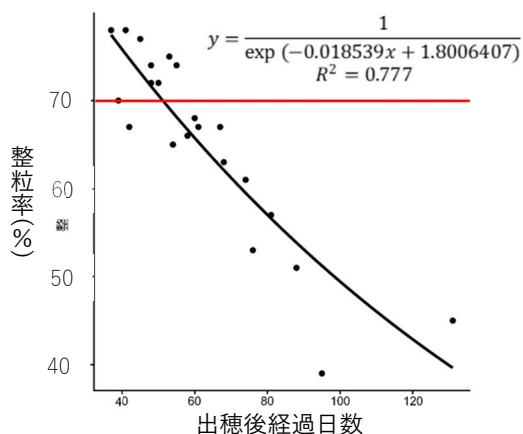


図 2 整粒歩合と出穂後経過日数

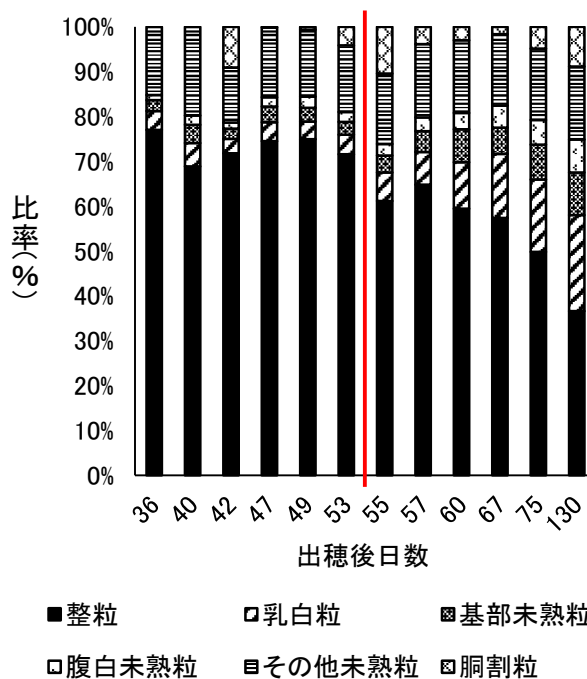


図 3 2025 年のとちぎの星玄米の機器分析結果

(水稲研究室 青沼 伸一)